

デーヴォ ガイド



2022.4.25-5.1

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディボーションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

2:1 祭司たちよ。今、この命令があなたがたに下される。

2:2 もし、あなたがたが聞き入れず、もし、わたしの名に栄光を帰することを心に留めないなら、
・ ・ 万軍の主は仰せられる。
・ ・ わたしは、あなたがたの中にのろいを送り、あなたがたへの祝福をのろいに変える。もう、それをのろいに変えている。あなたがたが、これを心に留めないからだ。

2:3 見よ。わたしは、あなたがたの子孫を責め、あなたがたの顔に糞をまき散らす。あなたがたの祭りの糞を。あなたがたはそれとともに投げ捨てられる。

2:4 このとき、あなたがたは、わたしが、レビとのわたしの契約を保つために、あなたがたにこの命令を送ったことを知ろう。
・ ・ 万軍の主は仰せられる。
・ ・

2:5 わたしの彼との契約は、いのちと平和であって、わたしは、それらを彼に与えた。それは恐れであったので、彼は、わたしを恐れ、わたしの名の前におののいた。

2:6 彼の口には真理の教えがあり、彼のくちびるには不正がなかった。平和と公正のうちに、彼はわたしとともに歩み、多くの者を罪から立ち返らせた。

2:7 祭司のくちびるは知識を守り、人々は彼の口から教えを求める。彼は万軍の主の使いであるからだ。

2:8 しかし、あなたがたは道からはずれ、多くの者を教えによってつまづかせ、レビとの契約をそこなった。
・ ・ 万軍の主は仰せられる。
・ ・

2:9 わたしもまた、あなたがたを、すべての

民にさげすまれ、軽んじられる者とする。あなたがたがわたしの道を守らず、えこひいきをして教えたからだ。」

祭司とは神と人の間にあって、人の罪を神の前においてとりなす人です。すなわち、人からのささげものによってその罪を贖い、また神からはそのみこころを人に伝えるのです。新約においては万人が祭司であり、私たちは神と人の間に立って、とりなしをし伝道をする者です。

その祭司の働きが、「あなたがたは道からはずれ、多くの者を…つまづかせ」と告発されています。教会の指導者、また新約の祭司としてのクリスチャンは、本来「口には真理…多くの者が罪から立ち返らせた」とあるような、すばらしい働き手です。

その榮譽ある働きを自分自身のものとして取り戻しましょう。またそのために一步を歩み出しましょう。「のろいに変えている」と、主から言われないうちに。また主の働きをしている人は、使命の重大さを忘れないで、そのような責任を任せられていることの光栄を感謝しましょう。またそこにある主の愛と守りを信じましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



2:10 私たちはみな、ただひとりの父を持っているのではないか。ただひとりの神が、私たちを創造したのではないか。なぜ私たちは、互いに裏切り合い、私たちの先祖の契約を汚すのか。

2:11 ユダは裏切り、イスラエルとエルサレムの中では忌まわしいことが行なわれている。まことにユダは、主の愛された主の聖所を汚し、外国の神の娘をめとった。

2:12 どうか主が、このようなことをする者を、たといその者が万軍の主にささげ物をささげても、ひとり残らずヤコブの天幕から断ってくださいように。

2:13 あなたがたはもう一つのことをしている。あなたがたは、涙と、悲鳴と、嘆きで主の祭壇をおおっている。主がもうささげ物を顧みず、あなたがたの手から、それを喜んで受け取らないからだ。

2:14 「なぜなのか。」とあなたがたは言う。それは主が、あなたとあなたの若い時の妻との証人であり、あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。

2:15 神は人を一体に造られたのではないか。彼には、霊の残りがある。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。あなたの若い時の妻を裏切ってはならない。

2:16 「わたしは、離婚を憎む。」とイスラエルの神、主は仰せられる。「わたしは、暴力でその着物をおおう。」と万軍の主は仰せられる。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。裏切ってはならない。

2:17 あなたがたは、あなたがたのことはばで主を煩わした。しかし、あなたがたは言う。「どのようにして、私たちは煩わしたのか。」「悪を行なう者もみな主の心になつている。主は彼らを喜ばれる。さばきの神はどこにいるのか。」とあなたがたは言っているのだ。

イスラエルは結婚のことで神をないがしろにしていると告発されています。社会が病んで来ると、そのしわ寄せは家庭内や親子関係に及び、またそこでの問題は社会に悪影響をもたらします。家庭の根本は結婚ですから、このことで神をないがしろにするのは見逃せないことです。

「ただひとりの神が…創造した」のであり、それゆえ結婚も神のルールに従ったものでなければ、当然祝福はありません。しかし、イスラエルは神を無視し、自分の喜びや欲望や満足や目的に従ってしまったのです。

「外国の神の娘」との結婚は、信仰の崩壊をもたらします。事実イスラエルはそれで多くの偶像がはびこるようになり、邪教が広まったのです。また「離婚」は社会の崩壊をもたらします。離婚は社会の最小単位である家庭を崩壊させるからです。

マラキ書ではこれらを単に個人の罪として扱っているのではなく、イスラエルという共同体として告発しています。私たちもこれらを個人攻撃のように扱うのではなく、イエス様の体である全ての人を思いつつ、信仰と希望と愛によってみこころを行ってゆく必要があります。

また「あなたがたの霊に注意せよ」とあります。自分は大丈夫ということで済ませないで、同じ問題を自分もたましいに抱えていることに気づき、聖霊によってきよめられてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 水曜

マラキ



3:1 「見よ。わたしは、わたしの使者を遣わす。彼はわたしの前に道を整える。あなたがたが尋ね求めている主が、突然、その神殿に来る。あなたがたが望んでいる契約の使者が、見よ、来ている。」と万軍の主は仰せられる。

3:2 だれが、この方の来られる日に耐えられよう。だれが、この方の現われるとき立っていられよう。まことに、この方は、精練する者の火、布をさらす者の灰汁のようだ。

3:3 この方は、銀を精練し、これをきよめる者として座に着き、レビの子らをきよめ、彼らを金のように、銀のように純粋にする。彼らは、主に、義のささげ物をささげる者となり、

3:4 ユダとエルサレムのささげ物は、昔の日のように、ずっと前の年のように、主を喜ばせる。

3:5 「わたしは、さばきのため、あなたがたのところ近くに近づく。わたしは、ためらうことなく証人となり、呪術者、姦淫を行なう者、偽って誓う者、不正な賃金で雇い人をしいたげ、やもめやみなしごを苦しめる者、在留異国人を押しつけて、わたしを恐れぬ者たちに、向かう。・・・万軍の主は仰せられる。・・・

3:6 主であるわたしは変わることがない。ヤコブの子らよ。あなたがたは、滅ぼし尽くされない。

「この方」とは「わたしは、さばきのため…」とおっしゃるイエス様、神の子のことです。ですから使者とはイエス様を民に紹介したバプテスマのヨハネのことです。このイエス様は「さばきのに」来ら

れるというのですが、しました「変わることがない」という神様の愛で、ヤコブの子らであるイスラエルは「滅ぼし尽くされない」とも、神は言われます。

イエス様の十字架とはこのように驚くべき内容を持ったものです。十字架の身代わりは人類を道連れにしようとするサタンの計画の粉碎であり、よみがえりは死への現実的な勝利です。そして十字架によって備えられた救いの道は、また受け入れられない者へのさばきのための備えともなりました。

イエス様は救い主であられるとともに、さばき主であるということを忘れないようにしましょう。それは恐怖心を持つためではなく、「あなたがたは、滅ぼし尽くされない」と、「変わらない」愛を持って、赦しきよめてくださるそのみこころを真剣に受け止めるためです。

イエス様の愛に対して真摯な心を持ち、真摯な生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:7 あなたがたの先祖の時代から、あなたがたは、わたしのおきてを離れ、それを守らなかった。わたしのところに帰れ。そうすれば、わたしもあなたがたのところに帰ろう。・・万軍の主は仰せられる。・・しかし、あなたがたは、『どのようにして、私たちは帰ろうか。』と言う。

3:8 人は神のものを盗むことができようか。ところが、あなたがたはわたしのものを盗んでいる。しかも、あなたがたは言う。『どのようにして、私たちはあなたのものを盗んだのでしょうか。』それは、十分の一と奉納物によってである。

3:9 あなたがたはのろいを受けている。あなたがたは、わたしのものを盗んでいる。この民全体が盗んでいる。

3:10 十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためてみよ。・・万軍の主は仰せられる。・・わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためてみよ。

3:11 わたしはあなたがたのために、いなごをしかって、あなたがたの土地の産物を滅ぼさないようにし、畑のぶどうの木が不作とならないようにする。・・万軍の主は仰せられる。・・

3:12 すべての国民は、あなたがたをしあわせ者と言うようになる。あなたがたが喜びの地となるからだ。」と万軍の主は仰せられる。

「わたしのもとに帰れ」と言われる主に対して、素直に「はい」と従うのではなく、「どのようにして…」と、言い訳のような理屈を優先させて、一向

に自分自身を変えない姿が浮き彫りになっていきます。そこで主はささげものに関して、民が神様から離れていることを指摘し、その点においても「わたしのところに帰れ」るのだと言っておられます。

ネヘミヤ記を見ますと、祭司を養うべき十一献金をしない者が多いので、祭司たちが働きを全うできずに畑を耕し、その結果神殿の働きに支障をきたしたという事実がありました。神様は今も十分の一は「わたしのもの」として、私たちに預けておられ、それを感謝と信仰でお返しするように定めておられ、それによって神様のわざが進むのですから、十分の一をささげないということは、主のものを盗んでいるということになります。

「天の窓」からの「あふれるばかりの祝福」があるかどうか、「産物」が「不作であるか」方策であるか、それはこの献金によるのだということがわかります。

十一献金について知らなかった人は、それがクリスチャンの基準であることを知しましょう。十一献金をしていなかった人は、自分は十分の一の分を余計に預けられていたのだと知り、それを主にお返ししましょう。それは誰のためでもなく、「すべての国民」から「しあわせ者」と呼ばれるような、祝福をいただくためでもあります。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



3:13 「あなたがたはわたしにかたくななことを言う。」と主は仰せられる。あなたがたは言う。「私たちはあなたに対して、何を言いましたか。」

3:14 あなたがたは言う。「神に仕えるのはむなしなことだ。神の戒めを守っても、万軍の主の前で悲しんで歩いても、何の益になろう。」

3:15 今、私たちは、高ぶる者をしあわせ者と言おう。悪を行なっても栄え、神を試みても罰を免れる。」と。

3:16 そのとき、主を恐れる者たちが、互いに語り合った。主は耳を傾けて、これを聞かれた。主を恐れ、主の御名を尊ぶ者たちのために、主の前で、記憶の書がしるされた。

3:17 「彼らは、わたしのものとなる。・・・万軍の主は仰せられる。・・・わたしが事を行なう日に、わたしの宝となる。人が自分に仕える子をあわれむように、わたしは彼らをあわれむ。」

3:18 あなたがたは再び、正しい人と悪者、神に仕える者と仕えない者との違いを見るようになる。

前半は神に従わない者の屁理屈が表されています。「神に仕えるのはむなし…何の益になろう」というのです。確かに「悪を行っても栄え、神を試みても罰を免れる。」と感じることもありますが、それは一時的であり、また表面的です。そのような悪は習慣化してしまい、誰からも尊敬されなくなり、味方を失い、自分自身の人生に平安がなくなってしまう。それは世の中の法則ですが、さらには神ご自身からの祝福を失ってしまうのです。

クリスチャンであっても、中には良識的な生き方を失ってしまう人もいますし、救われた者の最低限の歩みをもしていない人もいますが、私たちお互い

は「かたくな」にはならないようにしましょう。一方「主を恐れる者たち」は、主の「宝」でえあり、主に「あわれ」んでいただけます。「主に仕える者」と「仕えない者」とは明かに違いますから、心定めて生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



4:1 見よ。その日が来る。かまどのよう
に燃えながら。その日、すべて高ぶる者、す
べて悪を行なう者は、わらとなる。来ようと
しているその日は、彼らを焼き尽くし、根も
枝も残さない。・・万軍の主は仰せられ
る。・・

4:2 しかし、わたしの名を恐れるあなたがた
には、義の太陽が上り、その翼には、癒しがある。
あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のよう
にはね回る。

4:3 あなたがたはまた、悪者どもを踏みつけ
る。彼らは、わたしが事を行なう日に、あな
たがたの足の下で灰となるからだ。・・万軍
の主は仰せられる。・・

4:4 あなたがたは、わたしのしもべモーセの
律法を記憶せよ。それは、ホレブで、イスラ
エル全体のために、わたしが彼に命じたおき
てと定めである。

4:5 見よ。わたしは、主の大いなる恐ろしい
日が来る前に、預言者エリヤをあなたがたに
遣わす。

4:6 彼は、父の心を子に向けさせ、子の心を
その父に向けさせる。それは、わたしが来て、
のろいでこの地を打ち滅ぼさないためだ。」

主は救い主であります、さばき主でもあります。
私たちは自分が救われたということの意味を知るた
めには、自分がさばかれなければならない、罪ある
存在であるということを知らなければなりません。
それを聞かないように、語らないように、考えない
ようにするなら、神様の本当の愛も分らなくなり、
私たちは本当の幸いを得ることはできなくなるので
す。

愛があるならば、さばきの神と、さばかれるべき

自分たちであることを、方らなければなりません。
主は愛があるので、このようにマラキを通してさ
ばきを語らせるのです。

そして、「しかし」と主は希望を与えます。
「わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽
が上り」とあります。主を「恐れる」ことです。
主を恐れる人は、主のさばきが恐怖として臨むこ
とがないのです。日常でも主を恐れることを忘れ
ないように、自分の罪に気づき、認め、主のさば
きと赦しを理解し、主に感謝して従い、そして主
を恐れつつ、主の愛によって恵をいただき生きま
しょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願い
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



1日 日曜

コリント I



- 1:1 神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、
- 2 コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です。
- 3 私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように。
- 4 私は、キリスト・イエスによってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています。
- 5 というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです。
- 6 それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、
- 7 その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待っています。
- 8 主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで強く保ってくださいます。
- 9 神は真実であり、その方のお召しによって、あなたがたは神の御子、私たちの主イエス・キリストとの交わりに入れられました。

コリントの教会はたくさん問題や罪を抱えていました。それでもパウロは、「聖なるものとされた方々」、「あなたがたのことをいつも神に感謝しています。」、「豊かな者とされた」と言っています。

それらはすなわち、「キリスト・イエスにあって」ということです。

私たちは人を見ると、イエスキリストによって見る必要があります。そうすれば人の限界を超えた可能性が見えてきて、希望に満たされるのです。また自分自身を思うときも、キリストイエスにあって生かされているという思いが必要です。そうすれば自分を肯定的に見ることができ、また謙遜になって周囲にも希望を与えることができるのです。

「最後まで強く保ってくださいます」というのも、主にあってです。コリントの教会のように分裂分派があっても、主は教会が主ご自身のものであるゆえに、保ってくださいます。教会は人がコントロールできるものではありません。主の權威に委ねるときに、主は勝利をとってくださいますから、そのように信じて行動しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

